

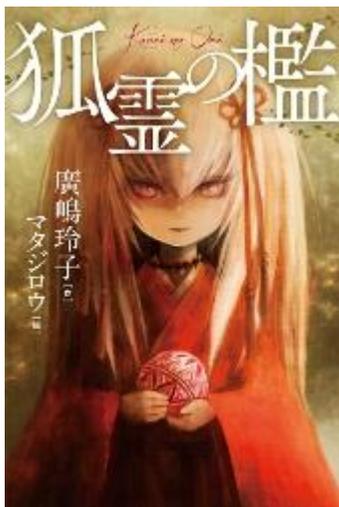
第34回

うつのみやこども賞だより

平成29年度 1回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》
これい おり
『狐霊の檻』
廣嶋玲子／著（小峰書店）



～読んだ本の感想よ～

- はじめは恐ろしく思っていたあぐりこの優しさに千代がふれるところで、あぐりこの優しさがよく伝わった。
- あぐりこのために苦勞して薬草を取る千代はとても思いやりのあっている人だなと思いました。
- 犬丸が味方だったり意外なてんかひが多く、面白かった。
- 平八郎がかめんの男と追ってくるのはドキドキしました。
- すぐくはらはらドキドキで面白かったです。
- 昔の時代のファンタジーということがおもしろかった。

●あぐりこさまが、檻からぬけだせて、本当にうれしかった。

『いつも心の中に』 小手鞠るい／著（金の星社）

- みずきとおとうさんの命は、つながっていることを、みずきが知ったとき、おとうさんは死んでないと思ったから、よかったねというきもちになりました。
- みずきにとつぜん知らされた父の死にかなしかったけど、それを乗り越えていくみずきの気持ちに感動しました。
- お父さんの手紙をよんだときに、お父さんの死は悲しみだけでなく、経験に変わったのだと思います
- 動物が先生だったのはとってもおもしろかった！
- みずきがまやさんやサンクチュアリーや仲間に出会って成長していくところがよかった。
- しせつにはいっている動物は、元は、死にかけている動物だったとしておどろきました。

『ふたりユースケ』 三田村信行／著（理論社）

- 私がもし、小川ユースケみたいになったらプレッシャーやストレスがすごくてやめたくなると思います。
- 小川ユースケが大川ユースケになるのかな、とときどきしました。
- 自分が自分らしくあることがどんなに大切かがよくわかりました。
- 最後は小川ユースケは世界にたった一人しかいないとスッキリした。
- 人の期待に応えるのもいいことだけど、自分らしさは忘れちゃいけないな、と思った。

『ぼくらは鉄道に乗って』 三輪裕子／著（小峰書店）

- 自分も遠い旅を試してみたいな、と思いました。
- 旅をするわくわく感や「うん」といってしまったあとの不安感などとても自分にた部分があり、本にのめり込んでしまうほどおもしろかった。
- 鉄道で目的地にまでいけて、よかったと思います。
- いっしょについてあげて、やさしいなと思った。弟に会いに行けば良かったと思った。
- 理子が鉄子かどうかときどきしました。

平成29年6月4日